

集めて
使う
リサイクル

協会報

秋
号

2007.11
Vol.29

特定非営利活動法人／集めて使うリサイクル協会

F41-0043 大阪市中央区高麗橋1-3-4 小池高麗橋ビル TEL.06-6208-7155 FAX.06-6208-6685 [東京連絡事務所] TEL.03-3360-1301 FAX.03-3360-7090

酒パックリサイクル促進協議会が発足

9月12日 第1回協議会を開催

酒パック（アルミ付飲料用紙パック）は、良質のパルプを使用しているものの、現在はその大部分が焼却処分されています。この問題を何とか解決しなければと、2002年から紙パックメーカーと酒造メーカーとで「酒パックリサイクリング問題研究会」を立ち上げ、リサイクルのための各種取り組みを行ってきました。この間には、容器包装リサイクル法の見直しがなされ、3R（リデュース・リユース・リサイクル）推進のため各業界も自主行動計画を立案、その達成が重要な課題になってきています。

そんな中、酒パックに関わる事業者が、主体的にリサイクル推進に関わっていくということと、従来の研究会を発展させて新たな名称と組織体制を整え、「酒パックリサイクル促進協議会」として発足することになりました。

第1回酒パックリサイクル促進協議会は、9月12日（水）、大阪市立総合生涯学習センターにおいて、約30社50名の参加のもとで開催されました。

この協議会発足を機に入会された新メンバーも10社近くあり、各社のリサイクル促進にむけての考えや取り組みなどの熱心な意見交換がなされると同時に、新たに制定された協議会の会則および役員が、全員の拍手をもって承認されました。

今後は、清酒・焼酎メーカーのみでなく、ビールや洋酒などの業界団体にも広く参加を呼びかけていくこと、専門部会を作り機敏に対応していくことなどを確認し、第1回の会合は今後に期待を抱かせる成果をあげて終了しました。



【酒パックリサイクル活動経過】

■1998年

容器メーカー工場損紙の流れ調査／酒造メーカー充填損紙の流れ調査。

■1999年

印刷工業会液体カートン部会（7社）とアルミ付飲料容器リサイクルプロジェクトスタート。アルミパック受入れ可能な製紙場の協体制を作った。（関東・東海地区・・静岡県 信栄製紙／近畿・中国地区・・兵庫県 西日本衛材／九州地区・・大分県 大分製紙）

■2000年

回収ボックス開発、酒販店での回収実験（熊本・岐阜・大阪）。

■2001年

エコ酒屋（熊本・宮崎・岐阜 計21店舗）。熊本小売酒販組合傘下の酒販店店頭に統一の酒パック回収ボック

スを設置、回収スタート。集まった酒パックは「熊本障害者労働センター」が紙漉き原料として活用。

この取り組みが、全国小売酒販組合連合会の機関紙「酒販通信」や、日経ほかの新聞に取り上げられる中で、各地の酒販組合や積極的な酒販店から「エコ酒屋」参加店が現れてきた。

■2002年

酒造メーカーと「酒パック・リサイクリング問題研究会」設立。エコ酒屋（熊本・宮崎・岐阜・東京 計52店舗）
(次ページに続く)



酒パックリサイクル活動の拡がり

毎年出展している各地の環境展や東京のエコプロダクツ展での情報発信活動や、次のような取り組みにより、



各種の波及効果が現れてきている。

- ・地域の障害者作業所と連動できるところは、酒販店と作業所でリサイクルシステムを組んだ。岐阜県養老小売酒販組合→養老作業所、岐阜県エコ酒屋→ぼらむ交流研究センター、和歌山県新宮小売酒販組合→白浜コスモスの郷、岩手県スーパージョイス→盛岡アビリティセンター等
- ・宮崎小売酒販組合や高槻小売酒販組合、南但小売酒販組合、小平市エコ酒屋などは、それぞれ行政の協力を得て、行政の広報紙等で市民に協力の呼びかけを行った。
- ・またこの活動の中から障害者作業所では、アルミ剥離

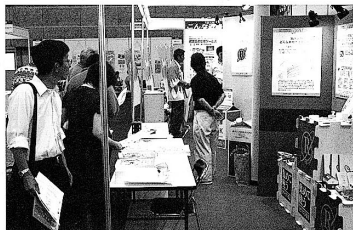
によって酒パックの商品価値が約2倍になることから、アルミ剥離を含めた事業として参画するところが拡大してきている。

- ・愛知県日進市のように、このプロジェクトを知って、酒パックの行政回収に乗り出すところが出てきた。
- ・スーパー店頭でも盛岡市のジョイスのように酒パック専用回収ボックスを設置して、地元作業所と連動したり、アルミ付、アルミなしの紙パック混合収集をスタートさせたところもある。
- ・自治体においても、ごみ減量の観点から、高槻市のようにエコ酒屋に酒パック回収を委託事業とするところも現れて来た。



NEW 環境展 2007 (大阪会場) に出展

9月6日(木)から8日(土)までの3日間、大阪市住之江区のインテックス大阪で、「2007NEW 環境展(大阪会場)」が開催されました。毎年恒例となっている環境展示会で、集めて使うリサイクル協会も例年どおり出展しました。ブースは、当協会の事業全体を紹介するコーナーと、当協会の会員である大和板紙グループのコーナーとで構成。前者については、牛乳パック再利用マークのついた商品の展示、アルミパックのリサイクルプロジェクトに関するパネル展示などを行いました。また後者については、牛乳パックや酒パックを原料とするダンボール「ミルダン」を利用した工作キットの展示・実演や、大和板紙が実施している機密書類処理システムの案内などを行いました。



会員募集中! 入会金は不要です。循環型社会構築を目指す私たちの仲間になってください!

会員区分	年会費(非課税)
団体	正会員 60,000円
	賛助会員 10,000円
個人	正会員 6,000円
	賛助会員 1,000円

●「協会報」では、会員企業各社の環境活動や環境保全型商品の紹介を行っています。どんどん情報をお寄せください。

Eメール info@r-kyokai.org HP <http://www.r-kyokai.org/>

◆環境に優しい紙ナプキン・紙おしぼりを製造

大黒工業(株)は、今から半世紀以上前、「紙の町」として知られる伊予三島(現・四国中央市)で産声を上げた業務用包装資材メーカーです。紙製品の加工メーカーとして、また各種メーカーの代理店として、食に関するさまざまな資材を外食産業などに販売しており、取り扱いアイテム数は今や10万点を超えています。

同社では、最終的にその多くがごみになる商品を販売することになるため、できるだけ環境に優しい商品の開発に努めてきました。その最初の試みが、パガス(サトウキビの搾りかす)を原料に使用したツリーフリー(非木材紙)の紙ナプキン・紙おしぼりでした。その後、非木材紙よりもさらに環境に優しい製品をと考え、牛乳パックを再利用した紙ナプキン・紙おしぼり「ミルカ」の開発に至りました。

また、市場にあふれるトレーや食品容器の多くが原油を原料とする化学製品である現状に対して、限られた資源の有効活用や地球温暖化の防止という観点から、世界に豊富な筆を原料とする「アシモールド」ブランドの紙容器を開発しました。こうしたバイオマス資源を活用することにより、たとえ使用後にごみとして燃やしてもトータルとしては二酸化炭素が増加せず、地球温暖化の進行にはつながらず(=カーボンニュートラル)。「アシモールド」製品は2000(平成12)年から製造を行っており、現在では各種イベントなどで幅広く利用されています。

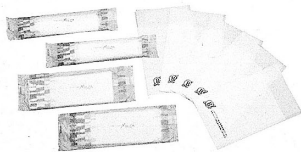
◆障害者雇用の促進で社会から必要とされる存在に

さらに、紙ナプキン「ミルカ」、新規事業の紙容器の製造を担当しているのは、同社の特例子会社・大黒友愛紙工。障害者の雇用促進を目的として2000年に設立された会社で、社員の半数が知的障害者です。

大黒工業(株)は、第一に、より環境に優しい商品を市場に提供することで、市場から必要な存在になること、第二に、障害者雇用の促進を通して社会から必要な存在になること、この二つの考え方を中心に企業活動を行っています。

【企業DATA】

- 会社名 大黒工業株式会社
- 本社所在地 四国中央市中曾根町1593
- 代表者 取締役社長 石川忠彦
- 創業 1950(昭和25)年1月
- 資本金 1億円
- 従業員 400名
- URL <http://www.daikoku.com.jp>



(写真左上) パックマーク(牛乳パック再利用マーク)のついている紙ナプキン・紙おしぼり「ミルカ」。

(写真右上) 筆を原料とする食品容器「アシモールド」。自然素材を使うことで、環境に配慮するとともに子どもたちも安心して使える容器となっています。

(写真左下) 大黒友愛紙工工場内の様子。

(写真右下) 大黒友愛紙工工場の外観。

